



金融財政

2006年(平成18年) 5月15日(月) 第9746号 (購読料金 月額税込み5,565円)

「鯛の串い」が見える

お茶の水女子大学教授 篠塚英子



薄幸の詩人、金子みすゞの「大漁」という詩が、私は特に好きだ。

朝焼小焼だ／大漁

だ／大羽鯛の／大漁だ／浜は祭りの／よ
うだけど／海のなかでは／何万の／鯛の
とむらい／するだろう

何といつても、彼女の詩の神髄は、「表」があれば必ず「裏」がある、という複眼的な優しいまなざしである。漁師にとつて大漁はもちろん、生命線であるだから祭りは喜ばしい。しかし声なき鯛の串いをも、忘れないでと、深海に私たちを誘ってくれる。

暮らし(経済)にはすべて、裏と表がある。現在の景気回復は喜ばしいことであり、非難すべきことでは全くない。また銀行破綻か? と不安に慄いたあの1990年代後半の日本経済、あそこに再び戻つてもよいなどは、誰も思はない。

だが小泉首相の格差論議には、何万の鯛の串いなど、歯牙にもかけない非情さが漂う。郵政民営化、これひとつを踏み絵にして大勝利を収めた衆議院選挙の

「小泉劇場」。テレビ報道のワイドショー化も手伝って、冷酷無比という印象が焼き付いた。

さらに輪をかけたのが、小泉チルドレンといわれて恥じない自民党新人議員83人。彼らの耳には、鯛の串いなど届くはずもない。

問答無用と実行された、数々の改革。そのひとつひとつの積み上げの上に、現在の景気回復が達成された。踏み台にされた多くの、死屍累々の全貌がようやく視界で捉えられつつある。

例えば、私の勤務する大学を例にとろう。法人化の掛け声とともに、すべてに競争原理が導入された。国家公務員ではなくなり、法人化したはずなのに、なぜか2年目にして、国家公務員に準じて5年間で5%の人員費削減が課された。

定年退職教員の補充は、教授の年俸を1千万円とすると、助教授500万円、非正規雇用の職員2人の計3人で代替される。小泉改革の下での失業の減少は、官民拵げてのこうした非正規雇用の増大によるところが大きいのである。

さて、鯛の串いが、あなたには見えているだろうか。

CONTENTS

- 解説 国債GDP比引き下げを、
欠かせぬ制度改革(富田俊基) 2
- 「歳出歳入一体改革」の目指すべき方向と課題 2
- BANCO
金融政策の新しい枠組み(成相 修) …… 3
- 照一隅
介護サービスのあり方(溪粒子) …… 5
- 政経深層
小沢政権獲得構想に現実味(増山栄太郎) …… 9
- インタビュー 金融2社の「運用自由化」
容認、事業範囲明確に
一田中直毅・郵政民営化委員長に聞く …… 10
- インサイド 証券業界の困った人たち …… 11
- 国際経済 石油権益囲い込み、
アフリカ諸国引き寄せ
中国の「資源エネルギー外交」に世界が注目 14
- コラム・コラム (藤原作弥) …… 15
- マーケットリーダー (石室 喬) …… 18
- 追加型株式投信ランキング <4月末> …… 19